
あの日の空

ゆいまる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの日の空

【Nコード】

N4490J

【作者名】

ゆいまる

【あらすじ】

忘れられない『あの日』がまたやってくる。必ず『あの日』になると私は空を見上げてしまうのは……何故だろう？

今、目の前に広がるそれは、のっぺりとした一色きりの、なんとも無愛想なものだった。

遠近感も色彩を楽しむ喜びも、何にも与えないそれに、それでも目を向けるのは、今日が『その日』だからだろうか？

さつき、いつも早朝からハイテンションなラジオのパーソナリティーも同じことを言っていた。

『あの日』がくると、空を見上げると。

『あの日』の空を、覚えているのかと言えば、実は心もとない。

生きるのに必死だった。大切な人の生存を確認するまで心は、恐怖と不安と、良からぬ想像で震えた。現実を伝える情報と、周囲の雑音の見分けもつかないまま、無我夢中で状況把握に終始した。

足元から全てを文字通りひっくり返したそれは、幾度も自分達の世界を襲い続けた。それに馴れた頃にはすっかり『あの日』以前の感覚がすり切れ、痛みや驚きや落胆に鈍くなっていた。

目に映るのは崩れた建物と、足元に散らばったガラスの破片。遠くでは黒い煙が幾本もたなびいていた。

耳に聞こえてくるのは、もっぱらサイレンの交錯する音と、物々しい自衛隊やトラックが通り過ぎる埃まみれの騒音だ。

人の顔も声も、みな、それらにかき消され、冷たい冬の風の中で不安げに彷徨っていた。

馴れない善意と、自己陶醉の偽善の狭間で何とか食いつなぎ、ようやくまともな生活に戻れたのは、身を包む空気の色が変わった頃だった。

しばらくは雨風を凌ぐ為のブルーシートの海原で『あの日』の事を嘆く声は小波となって響き続いていた。

それも時の流れは少しずつさらっていき、青の海原が消えた今、連帯感を生んでいた辛い体験は、忌まわしいもののように語られな

くなるか、それとは逆に武勇伝のように息まいた口先に上るかの、昔話になってしまつて来ている。

『あの日』からもつすぐ15年。

私は空を見上げている。

何故？

吹き下ろす冷たい風が頬を叩き、私はすっかり姿を変えた町に視線を降ろした。

そうだ、町は、人は、あれから随分とその形を変えた。

『あの日』あんなに共感と協力と慈愛に満ちた場所でさえも、今や平気な顔で犯罪が駆け抜けている。

忘れまいと人々が必死になるほど、痛みや哀しみがそうでもしないと風化してしまう事実に立ち竦んでしまう。

そうか。だから、私は空を見上げるのか。

私はもう一度空を仰いだ。

『あの日』と変わらないもの、を。

大きく深呼吸する。新鮮な空気が肺に流れ込む。

今日が来る。

今日は『あの日』

1月17日

阪神淡路大震災の起こつた日、だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4490j/>

あの日の空

2010年10月14日19時27分発行